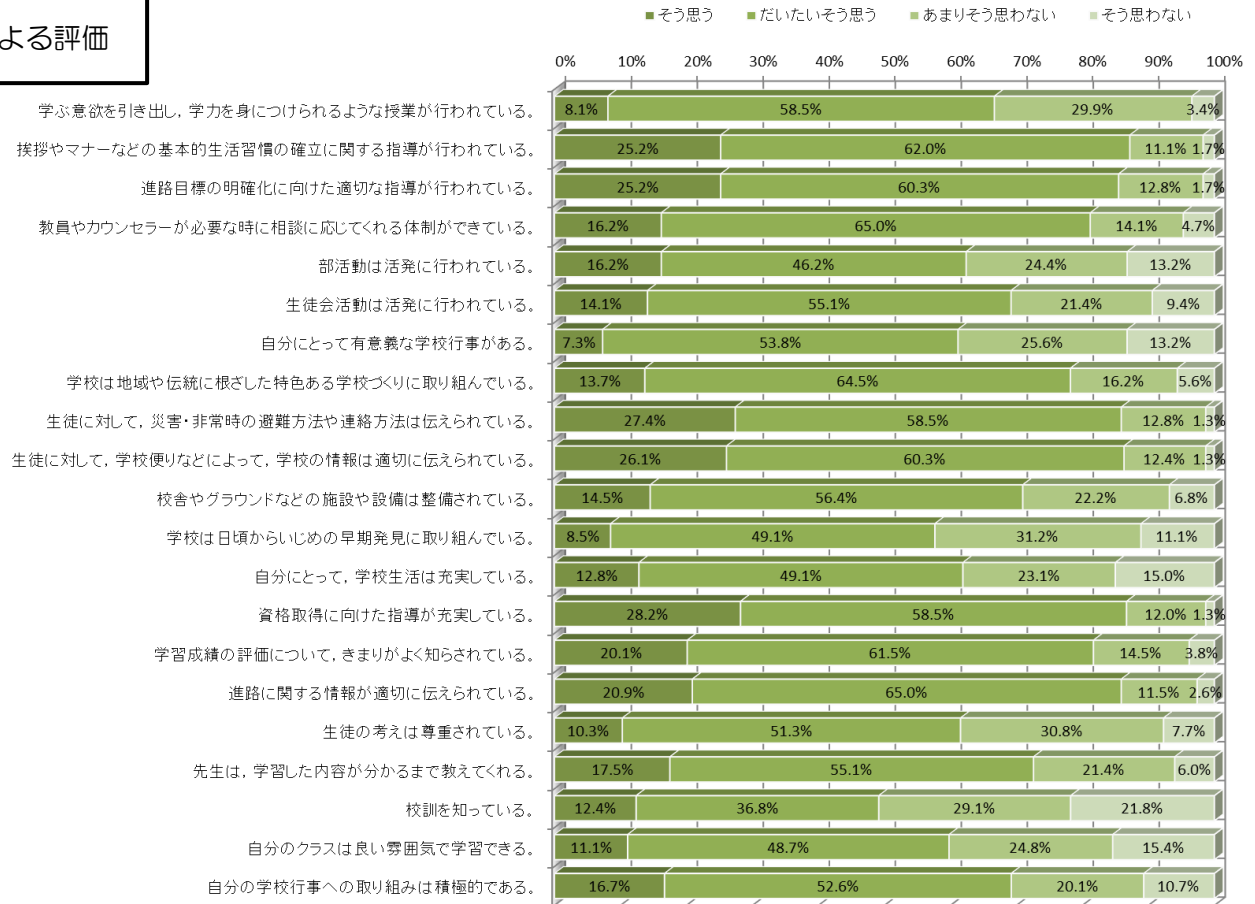


学校評価

宮城県鹿島台商業高等学校 発行
〒989-4104
宮城県大崎市鹿島台広長字杵師前4-4
TEL 0229(56)2664 FAX 0229(56)2461
URL <http://kasimadai-ch@myswan.ne.jp>

平成30年12月、全校生徒、保護者及び教職員を対象に「学校評価アンケート」を実施しました。結果がまとまりましたので、報告いたします。

生徒による評価



・回収状況 12月現在で在籍251名に対し234名で93.2%の回収率であった（前年度90.9%）

・分析【肯定的評価が高いもの、伸びたもの】

1 地域と伝統に根ざした特色ある学校作り

互市（春・秋）、わらじ祭り、トマト祭り、わらじフェス等地元の催し物に積極的に全学年の生徒が参加していることを自覚しながらキャリア教育の一環として生徒自身が捉えていることが伺われる。

【肯定的評価が特に低く、または前年度比で特にマイナスのもの】

1 部活動は活発である。

昨年度に引き続き、前年比マイナスとなった。個別の活動自体は充実した感もあるが、部活動の活性化の意味でも、活動内容や日数、人数など各部活毎の問題点について詳細な分析が急務である。

2 先生は、いじめなど生徒間の問題に気を配っている。

肯定的回答が57.6%で肯定的回答が、ほぼ生徒の半数しか肯定的でない。毎年いじめに関するアンケート調査を実施しているが、今後も、生徒間の問題についてこまめに全職員が気を配り向き合うことに関しては、改善していく必要があると思われる。

3 生徒の考えは尊重されている。

今年度の肯定的評価は61.6%であり、前年比-15.9%減少した。こまめな面談等を通して生徒の考え等を掌握しているがまだまだ、生徒の満足度を得られていないことは否めない。今後の改善が望まれる。

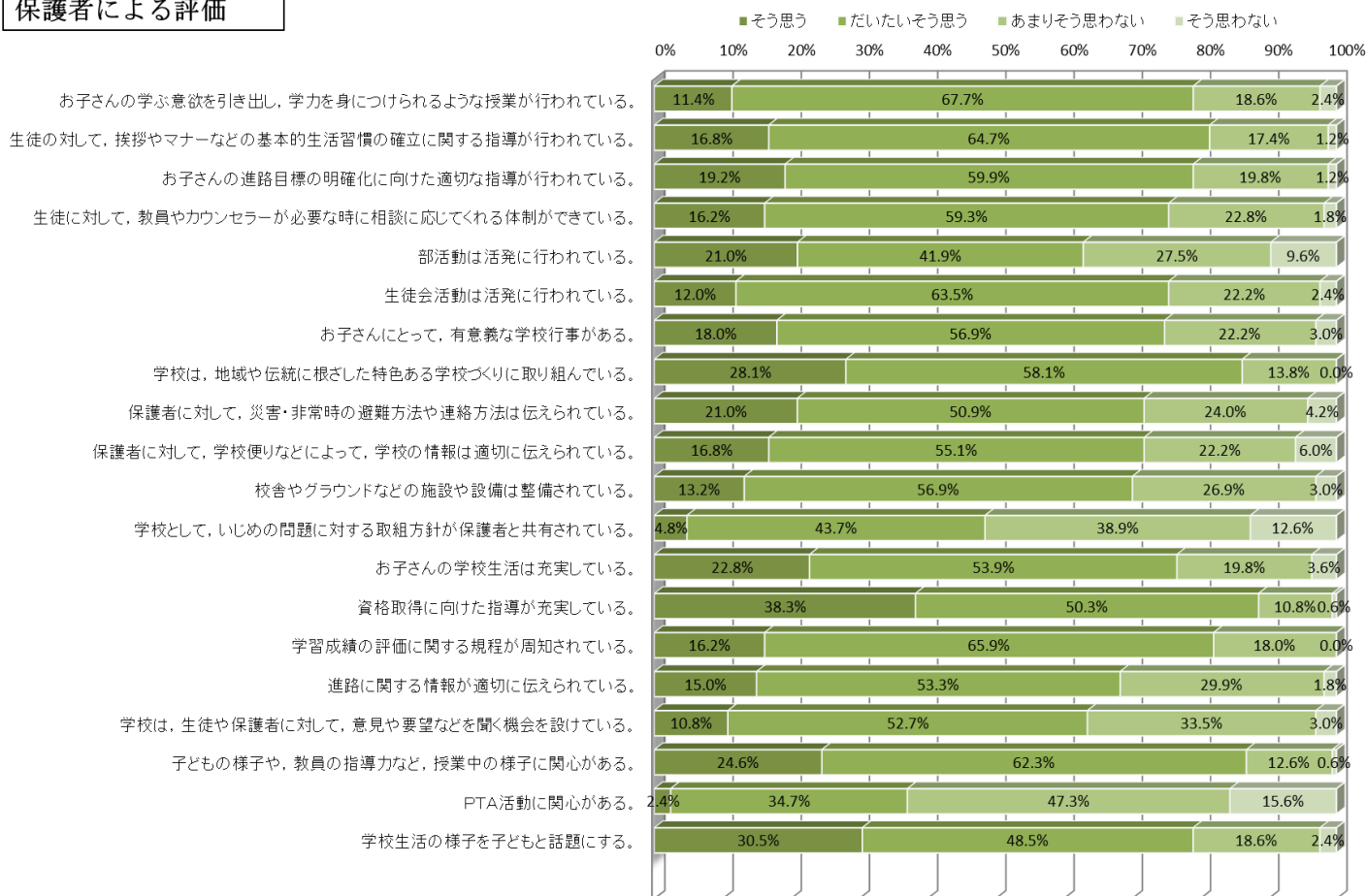
4 先生は、学習した内容がわかるまで教えてくれる。

肯定的な意見は72.6%であるが、前年比-9.6%である。教員は積極的に外部研修会などに参加し授業力向上のため日々努力をしている。今後期待したい。

5 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。

肯定的回答は6割を超えているが、毎年下がり続けてきているため、生徒から指導方法の工夫改善が求められているものと思われる。

保護者による評価



・回収状況 12月現在で在籍251名に対し167名 66.5%の回収率であった（前年度53.9%）

・分析【肯定的評価が80%以上のもの及び前年比より上昇したもの】

1 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。

肯定的評価は81.5%であり、基本的な生活習慣の確率に向けた指導については一定の評価を得ていると考えられる。

2 学校は地域や伝統に根ざした特色ある学校づくりをしている。

肯定的評価は86.2%であり、キャリア教育の一環として取り組んでいる地域との協働活動に対して高い理解を得ている。

3 学習成績の評価に関する規程等が保護者に周知されている。

肯定的評価が81.9%であり、昨年比で6.9%上昇した。成績発表時等で担任からのきめ細かな指導が浸透してきていると考えられる。

4 資格取得に向けた指導が充実している。

肯定的評価が88.6%であり、検定補講期間の設定など資格取得に向けた体制が整っていることについては好評価を得ている。

5 学習成績の評価に関する規定が周知されている。

肯定的評価は82.1%であり、毎年8割を超えているが、学年が進むと肯定的評価が上昇する傾向にあるので、早い段階での浸透について工夫をする必要がある。

6 先生は、分かりやすい授業にするために工夫している。

肯定的評価は86.9%であり、昨年比で4.5%増加した。教員の日々の取り組みが功を奏していると感じる。

【肯定的評価が特に低いもの、前年度比でマイナスのもの】

1 PTA活動は活発である。

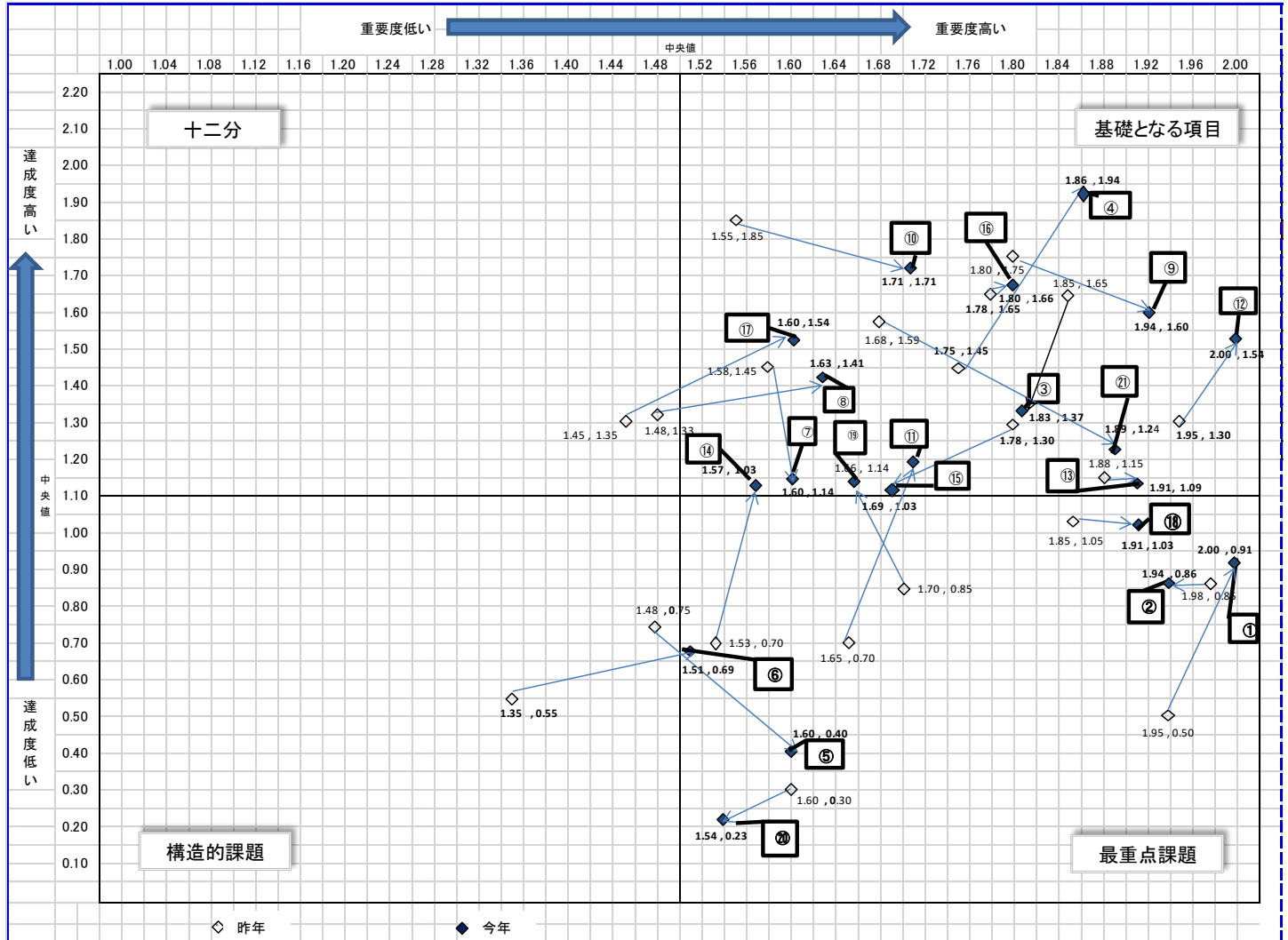
今年度の肯定的評価は37.1%であり、全体の中で最も肯定的評価が低い。毎年PTA活動には担当部が工夫しているが、なかなか結果が出ない分野ではある。次年度以降の上昇に期待したい。

2 学校は、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。

今年度の肯定的評価は48.5%であり、生徒の評価とも合わせ、早急に取り組まねばならない。担任のこまめな面談や対応に加え、家庭との連絡を今後も密にとり続け、家庭の理解を得られるよう努力をしたい。

教職員による評価

生徒・保護者と同じ項目を設定し重要度と達成度を分析する形でアンケートを行った。重要度は「重要である」「やや重要である」「あまり重要でない」「重要でない」の4つ、達成度は「よく出来ている」「大体出来ている」「あまり出来ていない」「出来ていない」「わからない」の5つで評価し、数値化して、それぞれの項目について重要度と達成度の交わる点を取って示してある。昨年度からの変化をつかむため、今年度は昨年度の点から今年度の点にどのように変化したかを矢印で示すことにより、今年度の傾向を把握することにした。



・回収状況 100%

・分析【特に「最重点課題」の領域について】

- 1 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業をすること
- 2 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導をすること
- 5 部活動の活性化に取り組んでいくこと
- 6 生徒会活動の活性化に取り組んでいくこと
- 18 生徒が学習した内容をしっかり理解できるよう授業づくりの工夫をすること

それぞれ、昨年度に引き続き、重要度が高いが達成度が低いものとして最重点課題であるとの共通認識があると言える。

20 授業開始のベル着を徹底すること

重要度は高いと感じているが、達成度が低くなっており、最重点課題となった。